

日九月八日

## 平市初年度豫算

新現事業は豫ねての計画通り

特戸の賦課には異動なし

平市會は別項所報の如く明

日招集されるが今市會に於て

決議される昭和十二年度の追

加更正豫算は合ての平町及び

平塙村としての豫算を改めら

れるもので市制施行初年度の

本格的豫算となる譯であるが

右追加の總額は四十五萬一千

七百七十三圓で平町としての

同年度豫算四十六萬七千百

四十三圓に大差なく而して去

る六月一日の市制施行と同時

に臨時市長代理によつて知事

の許可を受けてゐる今八月ま

で三ヶ月の臨時豫算十六萬

三千九百六十八圓を前記追加

額に合すれば六十一萬五千七

百四十一圓となりこれが平市

の初步十ヶ月の貯料であつて

數規事業と見るべきものは豫

ねて計算の平商業學校の移轉

三教室の増築と講堂の建築に

一万五千圓を計上されてゐる

尙ほ特戸制の賦課は從前に異

動を見ざる模様である

## 渡邊村の興村記念

石城郡渡邊村では来る十二日

の舊夕祭當日午前九時から

同村小學校に興村記念會を開

## 銅線泥の掃蕩には不正の古物商から

片付ける方針で嚴重な取締

該當者數名を留置取調

石城地方は炭礦及び各種工業

會社の所在多數の中、昨年秋

以來暴騰を持続してゐる銅鐵

材の盜難が頻發し坑夫並びに

何賃目と云ふもの等を所有す

る者から事實上情を知りつ

て買ひ受けて此の種のものにて

## 市民の聲議員の肚

市長は當然青沼氏

總構成を整ふ明日の平市會

條例規則にも問題なさ相

平市の總構成を整ふ市會は愈

よ明日十日午前十時から招集さ

れるが理事者の提案は前紙所

報の如く條例規則の新設定が

主なるもので右の制定に條規

例則上の各意見があるにして

も大部分先進地のそれに倣へ

採長補短されてゐるものな

る次へで市長選舉の如きも

市誕生に獻身的努力を盡し

た青瀬臨時代理市長を以て本

市に推すことの當然を一般市

民にも聲が高く各議員もまた

同一意向にあるので満場一致

初代市長を青沼氏に決せられ

るものと見られてゐる

## 海水浴場を荒す

前科三犯の男

電工の銅線泥

該當者數名を留置取調

石城郡内郷村の宮澤居住磐城

字小島古物商佐藤清治に金二

圓で賣却したこと平署に發覺

し捕へられた

## 勿來臨海學校通信

第六信

軍人家族慰問

本村長から表彰

平市字糸屋町の大工職中野良

太郎氏は所有家屋に借家する

村野芳藏君が妻子四人を置いて北支事變の第一戰に働き

た残金四十一錢を國防費に寄附方を昨八日平署に寄託した

藤市太郎に時價三圓餘のもの

を一四五十五錢で賣却したこと

發覺して平署に檢舉さる

## 職工の銅線泥

石城郡内郷村の宮澤居住磐城

字小島古物商佐藤清治に金二

圓で賣却したこと平署に發覺

し捕へられた

## 軍人の家族に

無家賃

軍人の義理

平市字糸屋町の大工職中野良

太郎氏は所有家屋に借家する

村の隔離病舎に去る六月五日

から八月七日まで六十四日間勤務中重症のチアス患者に對

## 赤井獄に

戰勝祈願

石城郡好間村の健保組合聯合

夕祭の裝飾費を節約して今九

日金三十圓を軍人の家族救護

人家族を慰問した

## 軍人家族慰問

平市三丁自久野ひさんは七

夕祭の裝飾費を節約して今九

日金三十圓を軍人の家族救護

人家族を慰問した

## 家族救護費寄附

平市三丁自久野ひさんは七

日金三十圓を軍人の家族救護

費に充て、欲しいと市役所に寄附した

## 赤井獄に

戰勝祈願

石城郡好間村の健保組合聯合

夕祭の裝飾費を節約して今九

日金三十圓を軍人の家族救護

人家族を慰問した

## 軍人家族慰問

平市三丁自久野ひさんは七

日金三十圓を軍人の家族救護

費に充て、欲しいと市役所に寄附した

## 軍人家族慰問

平市三丁自久野ひさんは七

日金三十圓を軍人の家族救護

費に

# 店業方

養鶏の  
經營法 (二)